
効果的な院内災害訓練の方法：災害医療センターと東京医療センターの場合 (齋藤意子ほか、EMERGENCY CARE 27: 256-260)

2017年12月1日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

災害時における病院の初動対応として重要なことは、まず入院患者の安全確保、診療の継続可否の判断、多数傷病者の受け入れ準備を行うことである。災害医療センターおよび東京医療センターでのアクションカードを使用した災害訓練について紹介する。

【アクションカードの概要】

これまで使用されていた災害対応マニュアルには、病院全体の対応や各部署、各病棟の役割がそれぞれ記載されていた。年に2回の災害訓練を行っていたが、災害初動期の情報伝達が最も混乱する中での、個人の役割行動を把握することができず、「災害初動期の体制確立」に困難を感じていた。そこで、マニュアルに沿った各個人の役割行動が明記されているアクションカードを作成し2009年から災害訓練で使用を開始し、検証を重ねた。

アクションカードとは、災害対応マニュアルを基に作成され、災害時の混乱した中で個人の役割行動が果たせるよう、行動レベルで記載されたものである。日々、各担当がカードを持つことになっており、院内のナースステーションに設置されている。

【災害訓練の意義】

災害訓練は、現行の災害対応マニュアルを基に訓練の目標を定め、目的の明確化、計画の立案、実施と評価、問題の明確化、具体策の立案を行うことが重要である。

訓練実施の際、マニュアルに記載されていない内容で訓練を実施することはあつてはならない。訓練においてはマニュアル通りに実施し、マニュアルの課題を抽出することが重要である。

【災害医療センターでの災害訓練の概要】

訓練内容：首都直下地震に対する、多数傷病者受け入れ対応訓練

訓練結果：検証の結果、アクションカードを用いることで、訓練参加の有無や経験年数、災害対応マニュアルの既読・未読や理解度に関係なく、個人の役割行動がとれることがわかった。また、役割が明記されていることで、初動体制確立までの時間短縮ができることが立証され、その後の訓練でも使用している。

【東京医療センターでの災害訓練の概要】

訓練内容：①アクションカードを使用しての、初動体制訓練

②看護部初動カード(災害発生直後から本部への被災状況報告までの行動をまとめたカード)を使用しての初動体制訓練

③傷病者受け入れの際のトリアージおよび重症度別の患者収容と初期治療、本部運営などの訓練

訓練結果：各部署・部門のアクションカードが存在したが、訓練でほとんど使用されていなかった。訓練前の事前の災害基礎研修がなされていないこと、訓練参加者が少なく、実災害時に対応するための訓練ではなかった。体制を明確にし、災害時対応マニュアルを作成することが急務である。

【まとめ】

効果的な災害訓練を行うために重要なことは、①災害マニュアル通りの訓練を行い、マニュアルの課題を抽出する。そしてマニュアル改訂を行い次の訓練につなげる。②誰が見てもわかる災害マニュアル、アクションカードを作成することである。

災害時に強い医療スタッフを育成するには、災害医療を実践するための基礎教育を行い、災害マニュアルの周知した上で、実践的な訓練を定期的に行っていくことが重要である。災害医療センターのようにアクションカードを用いての災害訓練に成功している例を参考に、各病院が速やかに災害初動期の体制確立をできるように訓練しなければならない。訓練を盛り上げていくためには、看護部だけの力ではなく、診療部(医師)ほか、全部門の職員の役割を明確にし、訓練参加率を上げることが不可欠である。